

NISSAY SDGs INFORMATION



SDGsや世界のさまざまな社会課題。
規模が大きくて「自分には無縁」と思ってしまう。
でも、実は自分のささいな行動が解決につながることもある。
「身近でも、取り組めることがあるんだ」
そう思えるきっかけになれば、という想いでお届けする情報紙です。

地球をより良い状態で次世代へつなぐために

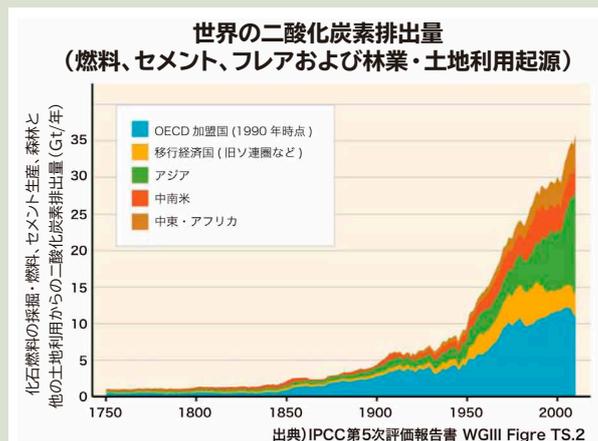
人間の活動に伴って排出される二酸化炭素は、地球温暖化に大きな影響を与えていると言われています。それを知りながら、“今”を生きる私たちが何も行動をとらなければ、“未来”を生きる子どもたちの環境や暮らしはどうなってしまうのでしょうか？
地球を守るために、世界中でさまざまな取り組みが始まっています。
“今”を生きる私たち一人ひとりが行動に移していけば、“未来”の地球はより良いものになっていくかもしれません。

脱炭素社会の実現へ向けて

温室効果ガスの8割を占める二酸化炭素

地球温暖化の原因となっている温室効果ガスにはさまざまなものがあります。なかでも二酸化炭素はもっとも温暖化への影響度が大きいガスで、温室効果ガスの約8割を占めています。

産業革命以降、化石燃料の使用が増え、その結果、大気中の二酸化炭素の濃度も増加しています。



出典) 全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト(<https://www.jccca.org/>)より

2050年の未来は私たちがつくる

日本も“2050年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現”という方針を掲げています。
脱炭素社会の実現は、国や企業だけが行動して達成するものではなく、私たち一人ひとりも、日常生活や各家庭から排出される温室効果ガスを削減する努力が必要です。
また、地球環境を良くすることだけでなく、積極的に温暖化対策を行うことは、産業構造や経済社会の変革をもたらし、大きな成長にもつながるとされています。

2050年脱炭素社会の実現へ向けて、
私たちが取り組めることは？

裏面

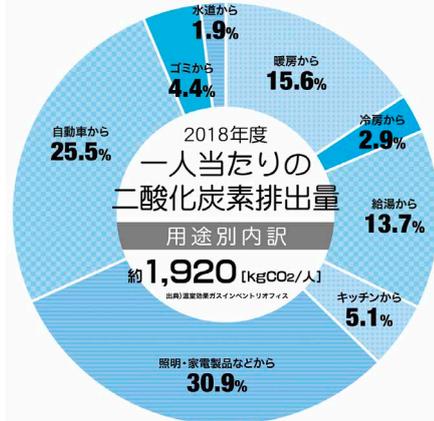
家庭での二酸化炭素排出量の削減は節約にもつながり、家計と地球の両方に優しい行動です。普段の生活に取り入れやすく、エコに繋がる活動を紹介します。

小さな工夫が削減につながる

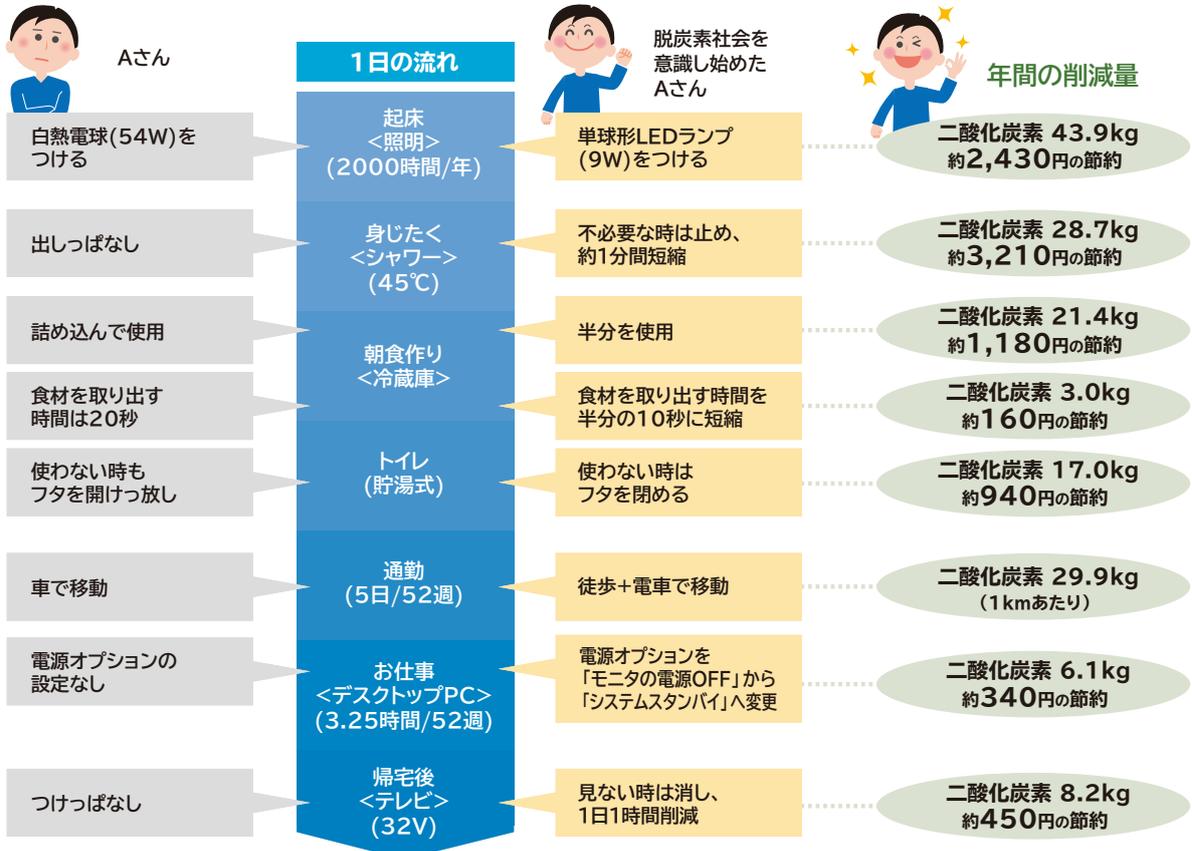
家庭における一人当たりの年間の二酸化炭素排出量は1,920kgと言われており、照明・家電製品や冷暖房、給湯、自動車など、家庭で使うさまざまなものから二酸化炭素は排出されています。

自宅にある家電の使い方を少しかえてみる、新しく製品を購入する際は環境負荷ができるだけ小さいものを選ぶ（グリーン購入）など、今までの自分の行動に少し環境への意識を取り入れることで、二酸化炭素の削減につながります。

一人当たりの二酸化炭素排出量（家庭部門、用途別）



出典) 温室効果ガスインベントリオフィス全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト(https://www.jccca.org/)より



出典) 資源エネルギー庁ウェブサイト 無理のない省エネ節約術をもとに作成 (https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/general/howto/) 国土交通省「輸送量あたりの二酸化炭素の排出量(旅客)」をもとに作成(自動車部分) (https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_tk_000007.html)

この情報を、みなさまの大切な方々へぜひお伝えください。持続可能な社会づくりへ向けて、取り組みの輪を拡げていきましょう。

日本生命は事業活動を通じてSDGsの達成に貢献していきます。

SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)とは、2015年9月の国連総会で採択された、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のために、2030年までに達成すべき17のゴールです。当社は、これまでもSDGsと関連するさまざまな商品・サービスの開発・提供、資産運用等に取り組んでおり、今後も事業活動を通じて社会的課題の解決に貢献していきます。



日本生命のサステナビリティへの取り組みはこちら



SDGsについて知りたい方はこちら (Edu Town SDGs HP)

